

寄せられた意見

No. 53

受付日	H17. 7. 12	年齢		居住 市町村名	名寄市
件名	これからのサンルダムの必要性について				

これからのサンルダムの必要性について

今まさに、サンルダムの建設をめぐり、賛否両論多くの意見が示され、とりわけ、洪水を想定した治水対策を巡る論議が活発に行われていると承知しております。

この地に開拓の跡が入って以降、天塩川は多くの恵みと共に相反する災害をもたらし、河川の治水と利水はある意味で、この地に暮らす人々にとっての永遠の課題でもあると考えます。

特に私たちの生活基盤である一次産業の農業では、農地を守り、作物を育てる治水と利水は自分たちの命の尊さと同じくらいの意味をもっています。サンルダムにはそうした私たちの切実な希望が託されています。

ダムの代替案として提起されている遊水池案については、自分たちのかけがえのない農地が遊水池として接収もしくは借り上げされ、洪水覚悟で営農し、仮に収穫を失うことになれば、だれが希望や意欲を持って農家を続けることができるでしょうか。

農地の遊水池への転換はその地での農業の荒廃を意味します。これまでの農業を発展させてきた治水そして利水の歴史を真っ向から否定する案である遊水池への転換はとて受け入れることはできません。

少々大げさな話になるかもしれませんが、今、日本の農業は異常気象に代表される地球温暖化と真剣に向き合っています。

すでに多くの推計では、今後40年から50年後には地球の平均気温が1度以上上昇し、その影響で農作物の生育障害や水不足、極端な大雨による水害などでの生産量の減少、不安定化が起こると予測されています。

この日本、とりわけ北海道でも例外ではなく、将来、積雪量の不足による深刻な水不足や本州並みの集中豪雨が懸念されています。

国のレベルでは地球温暖化への対応を進めるため京都議定書が取りまとめられています。最大の影響を及ぼすアメリカが離脱したり、中国などがその責任を負っていないなど、この影響は現実のものとなっています。

こうしたことを考えると、将来の農業を守る施策は多岐にわたり、特に治水や利水対策の確保は大変重要な問題であり、サンルダムの役割は決して小さいものではないと考えます。

将来を見据えた賢明なご判断を切望しております。